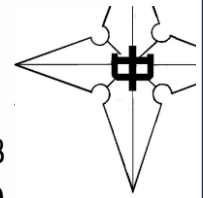


南浦和中だより



〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909

『How many いい顔』

校長 おお ころ うち のり かず 大河内 範一



私は歯並びがよくない。小学生の頃、親に勧められて歯科矯正を試みたものの、治療の過程で歯を何本か抜かなければならないという事実を知らされた時、「痛いから嫌だ」という短絡的な理由で、途中で止めてしまった。「あの時、最後まで治療を続けていれば…」
「麻酔さえすれば痛みなんか我慢できたのに…」と、今となっては相当後悔している。鏡で自分の顔を見た時に、「私もキムタクのような（ちょっと古いか…）菅田将暉のような美しい歯になりたかったな」と今でも思うことがある。

ついでに言うと、腫れぼったい一重の目も悩みのタネだった。中学生の頃、「大河内くんはいつも眠そうだね」と言われるのがとても嫌だった。高校生の頃、街歩きをした際に、ショーウィンドウに映る自分の顔と目が合ってはガッカリしていた。鏡で自分の顔を見た時に、「私も反町隆史のような（やっぱり古いか…）松本潤のような二重の目になりたかったな」と思っていたが、実は目については状況が変わってきた。年齢を重ねるごとにまぶたが垂れ下がってきて、二重風に見えるようになったのである。夢が叶ったのだが老化が伴っているので、喜んでいいのか悪いのかちょっと判断が難しい。とにかく、自分の容姿の悩みは、誰もが少なからず感じているものだ。

話を少し戻すが、以前はマスクなしで顔を出すことが当たり前だったので、日常生活で歯並びはほとんど意識していなかった。しかし、長いマスク生活を経験した今では、自分の口元が気になるようになってしまった。私のような年齢になっても、こんな感覚になっているのだ。「人前でマスクを外すことは、人前で下着を脱ぐのと同じくらい恥ずかしい」という意味から「顔パンツ」という珍妙な言葉も登場した。多感な時期である若い人たちの感情は、相当たいへんなのだろうと推測される。

専門家の見解で、マスク着用はコミュニケーションが阻害されてしまうという指摘がある。マスクをすると顔の表情が半分以上隠れてしまい、視覚の情報量が半減してしまうというのだ。また、声がかぐもり微妙なニュアンスが聞き取れなくなってしまうという。何より仲間の顔を知らずに過ごしているという悲しい現実がある。

さて、新しい年度を迎え、学校生活ではいよいよマスクの着用を求めないことが基本となった。ただし、様々な事情があるので、マスクの着脱を強いることがないように、そして、マスクの着用の有無による差別や偏見がないように配慮していく必要があるとされている。個人個人のペースでいいので、ゆっくり焦らずに、少しずつ前に進んでいけばいいなと考えている。

今後は、私も自分の口元をあまり気にせずに、昔のように過ごしていこうと思う。そして、いつの日か、学校生活の中で、先生方の「いい顔」と、生徒たちの「いい顔」で、笑い合える時が来ることを、楽しみに待つとしよう。